

マヤ文明の繁栄と衰退

マヤ文明研究室 生田幸治

メンバー: 辻敏夫、海老名裕子、能勢礼子、遠藤幸子、齊藤須美子、松本千種

指導: 杉山精一 先生

男性2名、女性5名で、まずは大阪の国立国際博物館で開催された「古代メキシコ マヤ、アステカ、テオティワカン」と言う展示会の見学から始まりました。沢山の展示物に驚きましたが特に衝撃を受けたのがマヤの古代都市パレンケのパカル王の妃レイナ・ロハ‘赤の女王’の墓でした。「よくもまあこんなものを遠いところから持ってきたなあ」と言う印象です。



次に今現在でもマヤ遺跡(ホンジュラスのコパン遺跡)に通われて発掘作業をしながら研究されている小松大学の中村教授にお話を伺いに行きました。すぐに遺跡に調査にいかれる束の間の時間を割いて色々なお話を聞かせて頂きました。最近では飛行機やドローンから‘ライダー技術’を使えば今まで見つけれなかった森の奥深くや地中に隠れた新しい遺跡が見つかるそうで少年のように目を輝かせてワクワクしながら語っておられる中村先生を羨ましく思えました。



岡山県の日生と言う港町に「BIZEN 中南米美術館」がありました。館長の森下矢須之氏のお爺さんが私費で建てた美術館で展示されている古代メソアメリカ文明(マヤ、テオティワカン、アステカ)から発掘されたとんでもない数の土器や装飾品等々もお爺さんが集められたものだそうです。館長自ら美術館の隅から隅まで案内して頂き展示物について丁寧に熱く語っていただきました。ここにも古代文明に魅せられた永遠の少年が居りました。

以上